

サービス成熟度

Service Maturity

各レベルの特徴



何もしない

故障するまで稼働。機器が故障すると、ファブ全体にリスクが生じます。

ウエハはダメージを受け、失われます。

レベル1



事後保全

一時的な修理、オーバーホール、改修、交換または改造

プロセスツールが長時間停止するため、高コストとなります。ウエハはダメージを受け、失われます。

レベル2



計画的・予防保全

定期的なサービス、部品交換、またはオーバーホールおよびスペアパーツと在庫管理が必要

資産のメンテナンスに伴うサービスコストの高騰

ツールの可用性とウエハスループットが制限され、計画外のダウンタイムのリスクが残ります。

レベル3



予知保全

状態に基づくメンテナンスの決定とプロアクティブなサプライチェーン計画

技術と分析により、スマートマニュファクチャリングへの道が開かれます。

計画外のダウンタイムのリスクを最小限に抑えます。不要なサービスを削減します。

ツールの可用性とウエハのスループットを向上させます。

レベル4



処方的保全

結果を重視した推奨されるメンテナンスと準備。高度な分析とドメイン専門知識

独自のファブパフォーマンス指標に合わせたメンテナンススケジュールと真空システムのコンディション

サブファブ、クリーンルーム、サプライチェーン活動の最適な連携

サブファブのパフォーマンス、ツールの可用性、ウエハスループットを最大化します。

レベル5